

# 多彩な運営能力と実績、プラス 一流の建物維持管理能力を併せ持つ

## —利用料金制採用施設を中心に臨むオーエンス—

地域に根ざした公的サービスをめざす場合、自社の持てるノウハウを最大限に發揮することは勿論だが、専門性を各社が持ち寄ってコングロマリットを形成す

スタートはできるだけ「単独」で獲得をめざし臨機応変に「コンソーシアム」を組む



指定管理事業担当の取締役 白石秀雄 営業本部長

建物の総合管理を主業務として展開するオーエンスは、数々の自治体施設の受託業務を経験してきたが、豊富な事業コンテンツが指定管理者制度の案件にフィットするという強みを生かし、積極的に応募し指名を受けている。オーエンスならではの得意分野とノウハウが高得点につながったようだ。

一方、基本的に自分ところで蓄積したコンテンツを組み合わせ、単独で対応できる案件に絞って応募した会社も少なくない。総合ビル管理サービス大手のオーエンスはどちらかというと〈単独型志向〉である。

「今後大きな施設や多機能の複合施設に対しては、色々なパートナーとコンソーシアムを組まなければならないと思いますが、スタートはなるべく単独でやっていこうと決めました。自分のところにどれだけの力があるのかを試したいという気持ちもあったので」

指定管理事業担当の取締役、白石秀雄 営業本部長は、参入元年のスタンスをこう語る。バブリックビジネスに攻め入る指揮官として、この一年の収穫はどうだったのだろう。

「四十五戦して十勝という結果。とにかく、十件は確保しようと目標を立てましたから、良しとしなければならないですね。以前から受託してきた自治体施設も含まれています。振り返ってみて、思い通りの結果が出たかというと、やはり全てうまくいったわけではなかつた。そこが少し残念ですが」

オーエンスの指定管理者実績十一件（平成十八年三月一日現在）は次の通り

# ケーススタディ

だつた。

- ・大坂下公園プール（横浜市）
- ・長野市少年科学センター（長野市）
- ・柳橋ふれあいプラザ（大和市）
- ・大貫谷公園プール（横浜市）
- ・川辺公園プール（横浜市）
- ・東京体育館（東京都）
- ・江戸川区陸上競技場、江戸川区球場、江戸川区臨海球技場第一・第二（江戸川区）
- ・鳥居崎海浜公園内水泳プール（木更津市）
- ・千葉県国際総合水泳場（千葉県）
- ・古川市総合体育館（古川市）
- ・文京区立交流館・七施設（文京区）
- このうち東京体育館、千葉県国際総合水泳場、古川市総合体育館の三件が他二、二社とのコンソーシアム、他はすべてオーナー単独で獲得し、運営する。大坂下公園プールはすでに平成十七年四月から指定管理者に指名され運営管理に入っている施設だ。

## 全国営業スタッフのフットワークを生かすパブリックビジネスの専門チーム

従業員二千人。「快適な都市空間をクリエイトする」という企業コンセプトで、プロパティー・マネジメントやビル管理を中心にして、レストラン関連事業、医療関連サービス事業、スポーツ事業など、

幅広い多角化展開をはかつてきた。必ずしも、PFIや指定管理者制度のために照準を当てて育成した事業群ではないが、「官から民へ」という大きな方向転換の波が訪れ、どの分野もパブリックビジネスのフィールドで活躍できる分野であることにはつきり見えてきた。

「開拓してきた事業の数々が、自然と指定管理者制度にマッチする時代になつたということ。これはラッキーと言えます」

が、公施設の管理業務を長く受託してきた経験の中で、われわれ民間ならサービスをこうしたい、アイデアはこう盛り込むといったイメージは絶えず培つていましたから。現場にのつとつたサービスとは何かを学んできました。それが大きい

リーダーの白石本部長のもと、営業部のスタッフ四人を中心に、各セクション及び各支店を含め約二十名の指定管理者

及びPFI専属のチームを編成。長い間、管理業務を受託していた江戸川区について、自治体から公募の前段階で新しいアイデアを求められたときから、プロジェクトを本格化させた。

知り尽くしている競技場・球場施設をさらに価値あるものにし、利用者にとつて親しみのある場所にする。シームレスな事業計画に新たなアイデアを盛り込んで住民の視線を集めることで、指定管理者研究の第一歩だつた。

「自分たちの努力によつてインセンテ

ィブが与えられるという形態のほうがいい」ということで、今回獲得した施設は利用料金制度を採用しているところが多い。財團が筆頭になりオーエンスが維持管理する東京体育館、やはり維持管理の委託というかたちの文京区立交流館、柳橋ふれあいプラザの三件を除けば、いずれも利用料金制度によって、オーエンスの経営手腕次第で、利益ののりしろは大きくなる。

「自助努力とアイデア。それらを注ぎ込んではじめて選ばれたという実感がある。また、われわれが持つているコンテンツの幅広さが審査段階で受け入れられたと思う」

## オーエンスの有機的な事業展開が自然と指定管理者のニーズに合ってきた

長野市少年科学センターの運営は、サインス関連における展示技術、教室運営、多岐にわたる実験学習の展開と遊び感覚のイベントなど、通常のビル管理会社ではとてもおいつかないスペシャル分野。センターにはレストランは設置されていないが、ミュージアムショップの運営が柱にあつた。オーエンスとしては、織り込み済みのノウハウだ。

「事業の軸が指定管理者に合っている。有機的な展開というのでしょうか、今考えるとピッタリ合っています。これまで

文化系の展示業務、教室運営などをやってきて、どんな課題でもどうぞ、といえども、ほどの蓄積がある。サイエンスショーやなどのコンテンツをもつてゐるところは少ないですからね」

規模から言えば、千葉県国際総合水泳場がピッグサイズの施設。ここは、総合スポーツ事業最大手のセントラルスポーツとコンソーシアムを組んだ。「鈴木大地メモリアルと愛称が付くこの施設なら、専属であり私たちの旧知の仲であるセントラルさんと一緒にやりたい」という願いがかなつた。

その他、江戸川区陸上競技場（全四施設）、東京体育館と大型施設の獲得が目立つた。「施設の大小にかかわらず、手間は同じだ」ということがわかつてきただ。今後もできれば、こうした大規模施設を運営していきたい」と、ターゲットを見る眼も定まってきた。

指揮官の号令で全国にいる営業部スタッフが呼応して動く。それにしても少数精銳のチームで四十五件にチャレンジしたバイタリティーは凄い。

「完敗という案件もありましたから、それほど凄くはない。しかし、振り返れば大半の自治体がコスト削減（縮減）に重きをおいていた印象があります。その経緯のなかで、われわれは金額勝負はやめよう決心しました。予算が低くてもいいですよ、といった顔をしてはならない。事業は無駄なコストを削減するのは

もちろんのことだが、削減しながらも確実・誠実に運営できる数字でやろうとするほどの蓄積がある。サイエンスショーも少ないですからね」

規模から言えば、千葉県国際総合水泳場がピッグサイズの施設。ここは、総合スポーツ事業最大手のセントラルスポーツとコンソーシアムを組んだ。「鈴木大地メモリアルと愛称が付くこの施設なら、専属であり私たちの旧知の仲であるセントラルさんと一緒にやりたい」という願いがかなつた。

昨今、この指定管理者に指名された会社が価格競争で勝ったものの、実際の運営（経営）に移行してすぐに行き詰まってしまったという話もちらほら届いてくる。「お金のほうで無理をしない。内容で勝負して選んでもらえるなら全力で取り組む。そういう姿勢でやつてきました今後もそうあります」

## 建物を大切に扱い寿命を延ばしてやることは指定管理者の大きな使命

この一年を経験して、白石本部長が気づいたことがある。指定管理者制度が公の施設に関する仕事であるにもかかわらず、建てて所有する多くの自治体に「建物を大事に守つていこう」という意識がほとんどみられないというのだ。

「多彩な運営能力はあります。その上、建物の維持管理については一流ですよ、というところをアピールしていきたい」

一方、受託業者としてつきあつてきた自治体に変化があらわれてきたともい

う。受託の場合は項目について何も言えない立場だが、指定管理者になつてからは対等の立場で話が進んできた。協定書の文章も「ここがまずい」というと、柔軟に検討する姿勢に変わった。

「これまでまだ前哨戦。ここからが本格的な戦いになると思っています。次は三割バッターになりたい」

四億円の事業費のスケールだとすると、建物の維持管理が一億円。水光熱費に二億円かかり、運営費は大体五千万円といふ割合になる。

これは自明のことながら、当事者の自治体は運営費の使途に意識が向いて、四五倍もかかる維持管理費には案外無関心でいる。「指定管理者が扱う施設は公の財産。維持管理をしつかりやって、次の世代にもその次の世代にも使つてもらわなければいけない」。建物が息をすると

とつて、自治体の建物觀が疎く感じられ、根本的な意識改革をするならここからはじめてほしいという。実際に、アスリートに言わせると、維持管理をしつかりしていないうまくは水質はどうしても落ちていて、「水に乗れない」という現象があるらしい。

「建物の維持管理については一流ですよ、

というところをアピールしていきたい」

一方、受託業者としてつきあつてきた

自治体に変化があらわれてきたともい

う。受託の場合は項目について何も言え

ない立場だが、指定管理者になつてから

は対等の立場で話が進んできた。協定書

の文章も「ここがまずい」というと、柔

軟に検討する姿勢に変わった。

# ケーススタディ

ケーススタディ

獲得した十件の施設運営に本番の春がやつてきた。オーエンス及びオーエンスのスタッフ一同は体制づくり、人材の研修、あたらしい情報収集や分析と、東奔西走する毎日が続いている。



指定管理者を獲得した「長野市少年科学センター」の外観